



受けよう！がん検診

佐賀県では、「県民が、がんを知り、がんの撲滅を目指す」ためにさまざまな取組を実施しています。今回はがん検診についてご紹介します。

「がん検診」とはどのようなものかご存知ですか？

実はがん検診には誤解が非常に多いのです。まず、検診の対象はだれかご存知ですか？**がん検診は、特に症状がない健康なみなさんが対象で、そこが重要なのです。**健康な人（=病気の症状がない人）では、もしがんがあっても、症状が出る前のがんつまり早期がんであることがほとんどなのです。健康な人を対象として、早期がんをみつけて、適切な治療を行う事でがんによる死を防げます。次に

最先端の検査法であれば、効果が大きいと思いませんか？

どんなにがんを見つける力が強くても、効果があるとは限らないのです。「**死亡リスクが下がること**」が科学的に証明された検診でなければ効果はありません。3つめが

がん検診は定期的に受ける必要があることをご存知ですか？

がん検診は1回受けて終わりではありません。31回の結果が「異常なし」であっても、その後のがんができる可能性は当然あるわけです。そのような場合にもがんをタイムリーに発見するために検診を定期的に受けることが大切なのです。



「検診」と「診療」の違いとは 「検診」は症状のない健康な人が対象です

「がん検診」では、「早期がん」つまり症状が出る前のがんを発見し、治療することが重要です。そのため、対象者は特に自覚症状のない（つまりがんがある可能性がごく低い）、健康な一般の方となります。がん検診とは、このようにがんのリスクの低い沢山の健康な人々のなかから、「検診」というふるいにかけて、がんの疑いのある人を分けるためのシステムです。ふるい分けられたがん疑いの人のみ精密検査が行われます。これに対し、自覚症状があり、病院を受診した患者の方は、健康な人に比べ、がんの可能性が高く、ふるい分けのための検査では不十分です。そこで、診断を目的として最初から精密検査を用います。

※「検診」の語源のscreening（スクリーニング）という英語は「ふるいにかける」という意味です。

検診	診療
対象 ●健康で生活に支障なし ●がんの可能性は低い (1,000人中せいぜい数人) ●見つかるがんは多くが早期がん 「検診」は、自覚症状がない人が対象なので早期がんが発見されることが多い 検査 ふるい分けの検査 (便潜血検査など)	対象 ●症状があり困っている ●がんの可能性が高い (数人にひとり) 自覚症状が出てから病院へ… 「診療」で見つかるがんは、往々にして進行してしまっていることが多い 検査 精密検査



日本で推奨されている「検診」 日本の5つの「がん検診」

現在、日本では5つの「がん検診」が有効な検診として推奨されています。これらの方法は、その有効性（死亡を防ぐ効果）があると科学的に証明されている検診です。また、有効性に加えて、検診のメリット・デメリットのバランスを検討して、対象となる年齢や受診間隔が定められています。

対象臓器	検診方法	対象者	受診間隔
胃	問診に加え、胃部エックス線または胃内視鏡検査のいずれか	50歳以上 ※1	2年に1回 ※2
子宮頸部	問診、視診、子宮頸部の細胞診、および内診	20歳以上	2年に1回
乳房	問診および乳房エックス線検査（マンモグラフィ）	40歳以上	2年に1回
肺	質問（問診）、胸部エックス線検査および喀痰細胞診 ※3	40歳以上	1年に1回
大腸	問診および便潜血検査	40歳以上	1年に1回

[厚生労働省 がん予防重点健康教育及びがん検診のための指針（平成28年2月4日一部改正）より]

※1：当分の間、胃部エックス線検査に関しては40歳以上に実施可
 ※2：当分の間、胃部エックス線検査に関しては年1回の実施可
 ※3：ただし喀痰細胞診は、原則50歳以上で喫煙指数が600以上の方のみ。過去の喫煙者も含む



定期的に「がん検診」を受診することが大切です 「がん検診」の流れ

がん検診は、最初のスクリーニング検査と呼ばれる検査だけでは意味がありません。がん検診を受けて「異常あり」となった場合には、必ず精密検査や、診断・治療を受ける必要があります。またがん検診を受けて「異常なし」となった場合でも、次の検診を受診することが重要です。なぜなら今回「異常なし」であっても、将来にわたってがんの危険がないという事ではないからです。むしろ、がんのリスクはがん検診で「異常なし」となった後、次の検診の間隔があげばあくほど高くなっていきます。いつできるかわからないがんをタイムリーに発見するためには定期的に検診を受けることが大切なのです。また、どんな検査でも100%がんが発見できるわけではありません。前回の検診で「異常なし」だったとしてもその後、気になる症状があらわれた場合には、次の検診を待たず、ただちに医療機関を受診することも重要です。



検診で「異常あり」となった方から、がんが見つかる割合は、がん検診によって異なりますが、約1.5~4.5%です。また、がん検診で見つかるがんの多くが、治療可能な「早期がん」です。 出典：公益財団法人 がん研究振興財団「がん検診2020」

新型コロナウイルス感染症が気になって受診を控えている方へ

定期的ながん検診を受けることが、がんの早期発見・早期治療につながります。検診の会場では、感染拡大防止ガイドライン「健康診断実施時における新型コロナウイルス感染症対策について」に従って換気や検温、消毒を行うなど、新型コロナウイルス感染症防止対策に努めています。

コロナ禍でも『がん検診』は必要です。がんの早期発見のカギは、定期的ながん検診を受けることです。貴重な機会を、どうか逃さないください。

佐賀県がん検診向上サポーター企業を紹介しす

今回、ご紹介するサポーター企業は、アヒルのCMでおなじみのアフラック生命保険株式会社です。お話しは佐賀支社 支社長 瀬戸弘貴さんです。「当社は、「がん」に苦しむ人々を経済的苦難から救いたい」という想いのもと、1974年に日本で初めてがん保険を提供する保険会社として創業しました。以来、その想いや「The Aflac Way」「企業理念」「ブランドプロミス」に表されるコアバリュー（基本的価値観）に基づき、社会と共有できる価値（Shared Value）を創造（Create）していく企業経営（=CSV経営）を実践しています。時代とともに変化する社会的課題を捉えつつ、それらの解決に向けて新たな価値を創造することで、ステークホルダーであるお客様、ビジネスパートナー、社員、株主、社会の期待に応える努力を続けてきました。佐賀県がん検診向上サポーター企業として、アフラック佐賀支社では、佐賀県にお住いの方を中心にがんに関する様々な情報をお届けすることで、佐賀県のがん検診受診率向上に向け取り組んでいます。」

Aflac アフラック生命保険株式会社 佐賀支社

〒840-0816 佐賀市駅南本町6-4
 佐賀中央第一生命ビルディング3F
 TEL：0952-25-6879
 FAX：0952-25-6881
<https://www.aflac.co.jp>

あとながき

亀裂が入るほど車のタイヤが消耗していたのに、全く気づいていなくて、ガソリンスタンドのスタッフから勧められ、先日タイヤを交換しました。「あっ！違う！タイヤを変えただけで、こんなに運転感覚が違うんだ！！」と性能差を実感しました。う？これをがん予防に例えるのなら、ドライバーの安全運転が日頃の生活習慣。タイヤやオイル交換・車検ががん検診になるのではないかしら。私のセールスポイントは4回連続ゴールド免許。これからは車の整備点検にも気をつけて、安全・安心なドライブを楽しみます。

《さがんだより新聞の問合せ先》

佐賀県 健康増進課がん撲滅特別対策室 担当 小瀬
 TEL：0952-25-7491 FAX：0952-25-7268